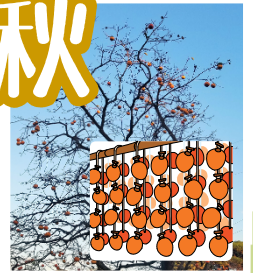


星川だより

秋



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

今回『ピカドンの本当の話』

を聞く会があるということでも久しぶりに熊谷に向かった。確か安保法制違憲訴訟で一緒だった服部道子さんが、あの広島原爆投下「ピカドン」で受けたホントの被爆体験を話すと聞き、直に生の話を聴きたいと出かけた。

今までもそうだったが、こういう機会があると自分の戦争体験を思い出し『どうしても首をかしげてしまうトラウマがある』それは、昭和20年8月14日の深夜、私は2歳になったばかりのことだった！
『私は必死になって走る母の背に黄色っぽい「井桁」模様の寝巻のまま載せられている』この光景に何度も夢でうなされた幼児体験、これが現実の記憶か？それとも父や母の熊谷空襲の経験談を刷り込まれたも

服部道子さんのトークイベント

『ピカドンの本当の話』を聴いて！

指扇九条の会 木村匡志



ピンクの髪が素敵な服部道子さん(左)と米田(当会代表)
8月22日(日)熊谷市緑化センターにて

のか？現実か刷り込みか脳裏に焼き付けられたこの記憶はいったい何なのか？未だにそのトラウマに揺り動かされているのだ！

ただその約一年くらい後に、熊谷駅までも見渡せる何もない焼け野が原に私は笑って突っ立っていたことがあり、間違いないく覚えていて。とにかく終戦の日の本土最後の空襲を受けた熊谷地域の惨状はとてつもない酷いものだったそうである。

父母が遭遇した熊谷空襲の体験を振り返って回想して話で再現すると、昭和20年8月14日、かなり暑い晩で11時過ぎにやっと床に就こうとした矢先「どす黒い東の空を突き破り、焼夷弾がパラパラと切れ目なく降り注ぎ、ヒラヒラ、サラサラと音を立てて分裂し、舞い下りて！真っ赤な閃光と炎が四方八方に飛び散り、道路に飛び火した！越後屋(実家の三階建て料亭)は焼け落ちた。

「この鎌倉町への爆撃があの星川の悲劇を生んだ。だが、わが家族(父、母方の祖母と叔母、父母と私の6人)は星川には逃げ込まず、真っ赤な炎の中をてんでんばらばらに走って逃げ、散り散りにはぐれてしまい、私を背負った母は焼夷弾を避けながら命からがら夢中で

逃げまくっていた！焼け出された近所の人達の大きな怒鳴り声！安否を求め街中を必死に探し回っている。右も左もわからず必死に逃げ回った母と叔母はやつとのこと熊谷寺の防空壕に辿り着いたのだ。だが、「もう満杯、ダメ！」と断られたが、あきらめずに壕の中の僅かな隙間を見つけて母はもう必死に叫んだ！「そこ、未だ空いているじゃない！乳飲み子、若い子(叔母)もここにいます。そんなこと言わずに、みんな一緒に入れてくれ下さい！」これが熊谷空襲で命拾いをした顛末だそう。

今までもそうだったが、こういう機会があると、どうしても自分の体験と比較してしまおう！今回もまたかと思つたし、映画『ひろしま』も何度か見て予備知識があつたにも拘らず今回の話は聴いてびっくり、新たに鳥肌が立つ思いだった。

何よりも驚いたのは、爆心地ではガラスや木が刺さり大げんがや皮膚がめくれあがる大やけどの被害を受けた人々が数えきれない程だったというのに、そのほんの僅か3.5キロメートル離れた地点で被爆した服部さんが傷一つなく奇跡的に生き延びたこと。今日の科学的知見では「広島原爆投下の日この地点で(推定された)放射線量を直接浴びたとしたら、これは想像を超える被爆であり、とても生き続けられない体

験をしたはずなのに外見的には傷一つ無く生還し、今日までよく奇跡的に生き延びてこられた！」ことに驚愕した次第である。

自分自身の被爆体験後の様々な困難な生活を乗り越えて、身をもってありの俤に体験談を語って来られた経験は、広島被爆の伝道者としての真骨頂を示された生き方として尊敬の念に堪えない。これこそとてつもない生き方であり、真の『あの日のピカドン』の語り部(伝道者)であり、原水爆禁止運動にとつて切つても切れない重鎮であるなあ！と思つた。それに比べて、私の戦災経験などは全く遠く及ばない拙いものと改めて感じ忸怩たる思いをした。

この今日の服部さんの感想は以上だが、今、ここでつくづく思うことは、父母が常々語っていた「空襲ですべてを失つた！戦争はもう嫌だ！二度と戦禍に巻き込まれたくない！」「平和を大事にする憲法ができた、これは大切なものだ！」といった言葉だ。これは服部さんが「核兵器は抑止力にはならない！戦争はやらないでほしい！」と最後に語った言葉とも相通じるものであると思う。

最後に、この『ピカドンの本当の話』および活動は、国連で採択された核兵器禁止条約の批准国が50か国を超え、発効したことに、少なからぬ影響を

与えたと 생각합니다。ここで元気に約一時間語っていただいた熊谷さんが健康で長生きしてください。お祈りさせていただきます。

(追記)

木村匡志さん一家は東京大空襲に遭い、疎開してきた熊谷でまた空襲に遭うという悲惨な体験をしています。今回の講演で、幼い頃から聴いてきた熊谷空襲と服部さんの被爆体験とが、ご自分の体験とオーバーラップしてきたのでしょうか。

命は落とさなくても体に損傷を及ぼし、二度にわたる空襲の被害に家や財産を失い、苦しい生活を強いられてきたに違いありません。戦後補償の国家的責任は未だ解決されていません。(米田主美)

報告 ニヤオさねまつり

小川美穂子



熊谷空襲を忘れない市民の会では、今年度はじめてニヤオさねまつりに参加しました。市民活動団体のお祭りも1

4回目ということでしたが、コロナ禍で開催を二度みあわせていたイベントです。

今年は、会場も街中のニットモールイベント広場に移し、新しい出会いがありました。

有志が手を上げて急きよ取り組みましたが、不手際もあつた分、また新たな可能性も見えたような気がします。

私がある時に、会の展示に入っていた方と話をすることができました。スタッフの声かけのお陰ですが、なんと、そのYさんはわたし達の本を妻沼のY's cafeでご覧下さり、また、星川のお店・梵天のお客様でもあり、偶然が二つも重なって嬉しくなりました。どちらも私の大好きなお店だからです。「車に乗らないから、星川をよく散歩するのよ」ということでした。よそから熊谷に来た方です。

また、別の会員が別団体で当番している時、展示に見入っている方がいたそうです。

その方は空襲の際の忘れてしまいたい思いを語って下さったそうです。確かに私も長岡市立の空襲記念館で、「空襲を思い出すから、花火は怖くて見られないんだよ」とガイドのおじいさんからお聴きました。

そんな様々なふれあいがあるの知らないところでもあったんだらうなと思うと、参加して良かったなど、嬉しくなります。そして、会期前から事務局や他

団体の方々とは色々話が出来たことを今後に生かせたらと考えています。



9/28(火)~10/3(日)までニットモール1Fイベント広場で開催。当会は、パネル展示と「最後の空襲 熊谷」の本を販売

～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321
加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会
口座名称カナ: クマガヤクウシュウヨワスレナイ シミンノカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店(019)
預金種目: 当座
口座番号: 0265321

会計報告 (2021/7/29~2021/10/21)

収入: 23,650 円
支出: 36,544 円
残高: 122,887 円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、米田主美
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)
メール imajn241@gmail.com
HP http://www.peace-kumagaya.org/

《コラム》上がらない日本の賃金

衆院選が公示された翌朝のNHKニュースで「上がらない日本の年収」の特集をやっていました。内容は抽象的なものですが、その前提として、OECDのデータを基にしたこの30年間の名目賃金の推移が示されていました。日本の過去30年の年収は上がらないどころか若干下がっているようです。ところがドイツは約2倍、アメリカとイギリスは約2.5倍となっています。なんでこんな差がついてしまったのでしょうか？

まず考えられるのは、労働者派遣法の改正などにより非正規労働者の増加と、その影響から正規労働者の雇用や賃上げの抑制があると思います。従来から福祉、介護、保育など低賃金の職種はありましたが、今や賃金抑制圧力は全業種におよんでいるのではないのでしょうか。

次に、労働組合の弱体化です。日本の場合、企業内組合という特殊性がありますが、社会党・総評の解体とそれに変わる労働者政党やナショナルセンターの弱体化が、賃上げ圧力の低下をもたらしていると思います。

一方、経営側の問題もあります。日本型雇用関係(終身雇用・年功序列)の否定を背景に、人件費をコストとみて、それを抑制(成果主義の安易な導入)することが経営と勘違いしている経営者が多いことです。人材派遣業の興隆が物語っています。ルーチンワークなどは委託や派遣などの形態で外に出している企業が増えています。行政サービスも非正規労働者か業者委託が進んでいます。中小企業では、現代版の奴隷制度と揶揄される技能実習生の問題など、日本の労働環境は激変しました。

この30年とは、バブル崩壊からの30年、少子高齢化が世界一進んだ30年、更に格差が拡大した30年ともいえると思います。NHKの特集では「上司を見ていると将来に希望が持てない」という意見がありました。将来に希望が持てないと少子化の歯止めがかかりません。こういった現状を打破するには意識改革が必要です。しかし主役であるべき若い世代は、飼いつづらされた犬のごとく従順に見えます。政治経済の劣化をもたらしているのは、私達ちなのです。私達ちの社会との関わり方だと思っています。(吉田)